

民報 ゆうばり 年金引き下げ不服審査請求開始

「戦争する国づくり」許さない！ "ラブ沖縄" 上映と講演会開く



影山あさ子監督の話聞く参加者

然上から米しとをつく代を引換えた。しかし、日米政府の合意から15年以て、代替基地をつくることができると引き換えた。しかし、日米政府の合意から15年以て、代替基地をつくることができると引き換えた。

12月1日、ゆうばり女性9条の会が主催して上映会と講演が行われました。上映の後、藤本幸久さんと共に監督し

の米兵による小学生の少女の集団レイプ事件をきっかけに、爆発した沖縄の怒り。日米政府は「世界で最も危険な基地」米海兵隊普天間基地を閉鎖することに合意したが、名護市辺野古の海を埋め立て、代替基地をつくることができると引き換えた。

「ラブ沖縄」@辺野古・高江・普天間

＝映画と講演の集い＝

た影山あさ子さんが映像を交えながら講演を行いました。

|| 辺野古 ||

復帰から40年たつた今も、基地は減らず、米軍による事件、事故もあとを絶たない。

|| 高江 ||

東村・高江のある北部訓練場の51

抵抗の8年間を追ったトキユメンタリー 今、知ってほしい沖縄の底力を！

ユゴンもやってくる美しい辺野古の海に、まだ一本の杭も出されず、抵抗を続けてきた人たちの姿が映し出される。

打たれていない。辺野古の浜と海と東村・高江のある北部訓練場の51

本島北部、自然豊かなやんばるの森。天然記念物のノグチゲラやヤンバルクイナも棲む森に北部訓練場がある。サイバール訓練、ゲリラ戦の訓練：次の戦場に向ける準備をする場所だ。

裏面へつづく

行政不服審査請求運動開始

2・5%の削減は暮らしを壊す

年金者組合夕張支部

「年金引き下げ許さず」の意思をつきつけようと行政不服審査請求書提出行動が年金者組合夕張支部で取り組まれています。

これは昨年末の総選挙を前に、騒然とした国会審議のなかで強行採決された法案により、この12月の年金支給額から減額を開始されることへの抗議行動です。

この先、来年4月にも1%を追加減額し、その1年後に残りの0.5%減額と3回にわけて合計2.5%の削減を順次進めるものです。

今回の1%減額では年額百万円にたいし一万円の減額で、2015年4月以降の受け取り年額は百万円に対しこれまでの金額より二万五千円も少なくなるということで、わずかな年金で生活する多く人々の暮らしを壊すことになると怒りが噴出しています。

この法律は国民年金（基礎年金）のほかに厚生年金（共済年金など）に対しても適用され、ぎりぎりの生活をさらに切り詰めなければならない事態が発生します。

今回の行政不服審査請求は「年金引き下げ」に対して異議を申し立て、撤回を求めるために行われます。全国の年金受給者が法に基づき「行政の違法または不当な処分」などの行為にたいして「不服申し立ての道を開く」ことで国民が泣き寝入りしないための大切な取り組みであると強調されています。

年金者組合夕張支部では申請用紙を作成し各組合員の提出を取り組むとともに組合に入っていない年金受給者にも広く呼び掛けて参加者を募っています。

25% 年金引き下げは不当

不服審査請求運動をいっしょに！

だれでもできます **審査請求**

あなたも年金者組合に

表面からつづく

2007年に工事が始まったが、住民たちは座り込みを続け、工事を止め続けている。カメラは、その姿を静かに撮り続ける。

Ⅱ 普天間Ⅱ

辺野古の新基地も、高江のヘリパッドも、すべては米海兵隊の新型輸送機オスプレイを配備するためだ。開発以来、7件の墜落事故で36名が死亡している。全会一致の県議会決議、10万3千人の沖縄県民大会。文字通り、沖縄県民の総意として「ノー」の意志が示される中、2012年10月、普天間基地にオスプレイがやってきた。体を張って、普天間基地の全てのゲートを封鎖する人びと。沖縄県警、機動隊数百名が、深夜までかかって座り込む人々を排除した。胸の苦しくなる光景が映し出される。

Ⅱ 影山監督の話Ⅱ

「沖縄の人びとは、休みなく闘い続けています。」 東京のマスコミは、詳細を伝えようとはしません。辺野古の海を埋め立てて新基地を作ることは、日本の軍事的一体化へ突き進むことです。沖縄にいる米軍のほとんどは、米軍海兵隊です。海兵隊は沖縄から、直接次の戦場に向かっていくために準備、訓練をしているのであって日本を守るといってもありません。このたび、自民党の沖縄選出議員は、選挙の公約を破って、辺野古移設賛成に転向しました。安倍政権は力づくで沖縄に辺野古新基地建設を認めさせようとしています。仲

井間知事に対して、1月19日投票開票の名護市長選の前に、辺野古埋め立ての許可を年内にも出せと、最大級の圧力をかけています。今、数にもものを言わせ、力づくで秘密保護法を採決することも、沖縄の基地建設も、戦争する国づくりに突き進む安倍政権の危険な姿のあらわれです。」と結んだ。

最後に、沖縄の抵抗と状況を知ってもらうためにDVDを広めたいと、カンパの訴えがあり、映画上映と講演を終わりました。

「手をつなぐ支援者の会ひろばシューパロ」が学習会

地域で障がい者が生き生き暮らすことを願って活動する同会は、11月30日に『当事者のお話を聞く会』を開きました。大人になつてから、発達障害と診断された青年が、これまでの苦悩の足跡を語りました。

参加者らは、自分の障がいを明らかにして、経験を話してくれたことに感謝しつつ、「誰もが安心して生きる地域コミュニティを一緒につくっていきましょう」と話していました。

許しません！年金引き下げ 不服審査請求に立ちあがりましょう

消費増税 やめよう!!

最低保障年金をつくれ



全日本年金者組合



「国会かけある記」

日本共産党参議院議員

大門 実紀史

「終わりの始まり」

12月6日深夜、秘密保護法案が参院本会議で可決された直後に開かれたわが党の議員団総会で、志位委員長が「これは安倍政権の終わりの始まりだ」といいました。そのとおり。じつは自民党議員の中にも、こんな暴走を続けていると、「終わりの始まり」になると思っている議員もいるのです。

4日に、さいたま市で開催された地方公聴会。与党が、法案採決の前提として、強引に開催を決めたものですが、わが党は嚴重に抗議しつつも、国民の声を聞く場をポイコトすべきではないと判断し、私が出席し公述人に質問しました。

開会前の控室での私と自民党N議員との会話。

私「やり方があまりに強引過ぎるのではないか」

N議員「たしかに驕(おご)りが出てきている。ただ、現場は上の指示に逆らえない」

私「こんなことをやっていると、安倍政権というより、自民党政権そのものが危なくなるよ。四年前、自民党は、教育基本法改悪、構造改革、農業再編路線を強引に押し進め、国民の猛反発を買って政権を失った。今また秘密保護法、構造改革(成長戦略)、TPPと、三拍子そろってきた」

N議員「破局にむかって突進している気はする。しかし誰もブレーキをかけられない」

終わらせるなら、安倍政権だけでなく、この際、自公政治そのものを終わらせたい。そして、つぎは、わが党が主軸になり、新しい政治勢力を結集して、本当に国民が主人公といえる政治をすすめるなければならない、と思いました。